

# 感動の場

『僧院の庭』

1986 年 小川原 脩 画



1983 年に小川原脩が旅したインド北部・ラダックは、チベットの文化が色濃く受け継がれる地方です。集落が僧院（ゴンパ）を中心に形成され、小川原もその建物群を多く描きました。この作品の目を引く部分には、黒が使われています。「黒」と言い表していますが、よく見ると、黒い絵の具はほぼ使われていません。さまざまな色が不思議と混じり合って「黒っぽい」色彩を見せています。

まずは手前の仔牛の足元に、一本の黒い水平線があります。ずっと鋭い黒い影は、照り付ける日の強さを連想させ、かかさ々と乾いた大地に照り付ける太陽が、画面の外に確かにあることを感じさせます。もう一つの黒い存在が、建物内部を表す暗闇です。白い土壁の家屋の奥へと続く階段の先は、日光が遮られた深い闇の空間です。きっと中に足を踏み入れたなら不気味なようでもあります。次第に目が慣れほの暗く感じる頃には、そこに息づく人々の暮らしが醸し出す空気（<sup>あんど</sup>）に包まれて安堵することでしょう。

この作品は「しりべしミュージアムロード共同展」（7/18 ～ 9/27）の木田金次郎美術館（岩内町）会場に展示されています。テーマは「ひきたてる黒」、本作の他にも作品に黒が印象的に取り入れられている作品が勢ぞろいしています。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

## ふるさと探訪

448 回

### 美しい外来種たち ―帰化植物―

私たちが普段見かける植物の中には、もともと日本にはなく、外国から入ってきた植物がたくさんあります。海外から入ってきて野生化した植物を帰化植物といい、持ち込まれた記録には 4 世紀、約 1600 年前のものがあるほど古くから認識されていますが、一般的に明治維新（1868 年）前後以降の人や物の流れが盛んになってから入ってきたものを帰化植物と扱います。

タンポポが咲き終わり姿が見えなくなる頃、タンポポにそっくりな花をつける帰化植物がいくつか見られるようになります。一つはブタナ。ヨーロッパ原産で世界中に帰化しています。日本では、1930 年代に札幌と神戸で帰化が確認され、札幌ではタンポポモドキ、神戸ではブタナと命名され、今ではブタナが一般的な名称となっています。

もう一つはコウリタンポポの仲間です。この植物は 1940 年代から北海道を中心に帰化したもので、オレンジの鮮やかな花は、群生すると美しいのですが、北海道ブルーリストで A2（北海道の生態系などへ大きな影響を及ぼしており、防除対策の必要性について検討する外来種）に指定され厄介者になっています。姿がコウリタンポポに似ていて黄色い花をつけるキバナコウリタンポポは、1955 年に植物学者の桑原義晴氏が倶知安町で帰化しているのを発見し、和名がつけられました。わが町に縁があると、帰化植物が身近に感じられませんか。

文：森脇 友行（倶知安風土館 学芸補助職員）



コウリタンポポとキバナコウリタンポポ

## 展覧会のお知らせ

### ■第 1 展示室

小川原脩展「遙かなる道程～ 70 年の歩み」

会 期：開催中～ 8 月 16 日(日)

小川原脩展「アジアへのまなざし」

小川原脩は、その画業の中で晩年の大きな転換点ともいえるアジアへの旅において、中国桂林、チベット、インドのそれぞれの風物に、鮮烈な印象を受けました。本展では小川原脩が描いた、アジアの大地で人と動物たちが繰り広げる悠々とした時間が流れる世界を紹介します。

会 期：8 月 22 日(土)～ 11 月 15 日(日)

### ■第 2 展示室

しりべしミュージアムロード共同展「五館五色！色とりどり」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する 5 つのミュージアムの共同企画展。今回は色がテーマです。

会 期：開催中～ 9 月 27 日(日)

## アート・イベントのお知らせ

### ■土曜サロン

※いずれの回も映像ルーム（無料）で、定員 10 名

幸せアート (2)「シャガール 空を舞う恋人たち」

日 時：8 月 1 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

世界のグレートアーティスト (2)「クールベ 色彩と技法の魔術師」

日 時：8 月 8 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

ユネスコ世界遺産 (1)「栄光の古代文明」

日 時：8 月 15 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

アート・トーク「小川原脩～壺とカラスと建物と」

日 時：8 月 29 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

### ■ギャラリー・トーク

「小川原脩とアジア」

日 時：8 月 22 日(土) ① 14 時、② 15 時 定 員：各回 10 名

お話し：沼田絵美（学芸員） 会 場：展示室（無料）

### ★絵画コンクール「ふるさとを描こう」

テーマ：「ふるさとの風景」

対象：後志管内町村の小学生、羊蹄山麓地区の中学生

画 材：水彩、クレヨンなど自由 大きさ：四つ切画用紙

応募締切：10 月 9 日(金) ※詳細は町 HP をご覧ください

### ■風土館イベント ふるさと探訪※要予約

「盛夏・鏡沼の自然を見てみよう」

日 時：8 月 17 日(月) 8 時 30 分～ 15 時 定 員：8 名（先着順） 集合場所：HANAZONO GOLF 駐車場（字花園）

講 師：矢吹全さん（ニセコネイチャーガイド フォレストレック主宰） 参加費：250 円（保険代）

# ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観 覧 料：一 般 500 円（400 円）

高 校 生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（ 50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観 覧 料：一 般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～ 17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

8 月の休館日 毎週火曜日

美術館のみ 17 ～ 21 日

（展示替えのため）

### 美術館、新たな旅立ち！

7 月に入り、道内の美術館が続々と再開、白老の国立アイヌ民族博物館もようやく幕を開けました。当館では土曜サロンが復活、賑やかな雰囲気（きふき）が戻りつつあります。

海外でも状況は同じ。ルーヴル美術館は 4 カ月ぶりのオープンです。ただ、入場者は以前の 2 ～ 3 割で、しかもその多くが自国民。そこで、無料のガイドなど国内向けのサービスに力を入れているそうです。

地域から世界へ、というのは美術館の理想の姿。海外の来館者が多い当館も、まずは地元の利用があってのこと。今回がそのためのきっかけとなれば。町内の皆さま、お待ちしています！

館 長 柴 勤

### 夏休み期間は小中高生無料

小学生・中学生・高校生は美術館を 8 月 31 日(月)まで無料で観覧できます。